



「国と僕らの未来を守る自衛隊を実感」浜北北部中学校2年生が自衛隊を体験



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、10月23日（火）と24日（水）、浜松市立浜北北部中学校の依頼を受けて同校の2年生7人の職場体験を行った。

これは、同校が教育活動の一環として生徒の職業観を養い、今後の進路選択に生かしていくことを目的に行われている。

集まった生徒たちは、まず静岡地本浜北募集案内所において所長の福島英明二等陸尉から陸・海・空各自衛隊の説明を聞いた後、広報官が行っている自衛官募集業務を体験。その後、航空自衛隊浜松広報館（浜松市）に移動して展示されている戦闘機や装備品を見学した。

募集業務体験では、広報官が使っているものと同じデザインの名刺を生徒がそれぞれの名刺で作製したり、広報イベントで配布する自衛隊特製缶バッジを専用の道具を使って手作りするなど、生徒たちは熱心に取り組んだ。

2日目は中学校において、「身近なもので誰でも実践できる」をテーマに、いざという時に役立つ自衛隊のテクニックを紹介した本の中から、怪我等の応急処置法や負傷者の搬送法、なにかと役立つロープワークの実習を行った。

参加した生徒からは「初めて自衛隊に関わり、親近感が湧いた」「いつ災害が起こるか分からないので、今日習ったロープワークをしっかり身につけておきたい」「国や僕たちの未来を守ってくれていることが実感できた」など、貴重な体験になったとの声が聞かれた。

静岡地本は、今後もこのような職場体験を積極的に支援して実際に自衛隊を体験してもらい、自衛隊の魅力を正しく伝えていく。

ショッピングセンターで自衛隊とふれあい



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は10月28日（日）、イオン袋井店（袋井市）において自衛隊の活動を広報した。

これは、同店が周辺自治体等の協力により警察・消防車両の展示イベントなどを定期的に開催していることから、袋井市自衛隊協会の協力により静岡地本も昨年から参加しているもの。店舗周辺地域は袋井市内の防災拠点の一つであり、今年も災害派遣時に同市の担任となる陸上自衛隊板妻駐屯地（御殿場市）第34普通科連隊とともに参加した。

当日は心地よい秋晴れの中、静岡地本のマスコットキャラクター「しずぼん」も会場に駆け付けた。会場では、静岡地本が鈴木明募集相談員の協力のもと、自衛官採用制度説明、災害派遣活動のパネル展示、アンケート協力者への缶バッジ配布を行い、第34普通科連隊が軽装甲機動車、偵察用オートバイ、高機動車を展示するとともに、野外炊具1号で調理した豚汁500食を来場者に無料配布した。

また、会場は約2000人の来場者と自衛官とがふれあう憩いの場となり、「なぜ同じ自衛官でも制服の色が違うの」という小学生からの質問に広報官が笑顔で答えていた。

静岡地本は、今後も部隊等と連携し担当地域における広報活動を積極的に行い、地域住民の自衛隊に対する正しい認識と理解の向上に努め、ひいては防衛基盤の強化を図っていく。

合格者が部隊研修で「隊員の躍動」を感じる



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は10月29日（月）、陸上自衛隊朝霞駐屯地（東京都練馬区）で行われた、一般曹候補生採用試験合格者に対する部隊研修に県内から4人を引率した。

この研修は、隊員の働く姿やその環境などを実際に見てもらい、陸上自衛隊をより一層理解してもらうために行われた。東部方面総監部募集班長・濱田二等陸佐が、陸上自衛隊の概要や方面隊の災害派遣活動実績などを自身の体験談とともに紹介したほか、東部方面衛生隊、体育学校、第2高射特科群で働く隊員の勤務風景等の見学を行った。

衛生隊では、准看護士の資格を持つ隊員による救命処置要領などの実演が行われた。東京オリンピックに向け日々の練成を行っている体育学校では、資料室に展示された米満3等陸尉（レスリング）のロンドンオリンピック金メダルに参加者が直接触れることができ、本物の重みを体感していた。また、高射特科群では、隊員がO3式中距離地对空誘導弾発射装置を作戦可能な態勢へ移行する様子を見学した。

参加者からは、「パンフレットなどではわからないことを、実際に活動している隊員の姿や現場を見て知ることができた」「職種の見学は一部分だったが、自分の将来の選択肢が増えた」などとの感想を聞くことができた。

静岡地本は、今後もこのような現場研修を活用し、岐路に立つ若者たちの一助となるよう積極的にサポートしていく。